学生自主学習支援

ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻　平井 守

高等言語教育研究所が 2012 年度より開始した学生による自主的な言語に関する勉強会、研究会の援助を目的とする本事業は、2014 年度においても継続された。今年度は、6 グループが支援対象となった。以下、各グループより提出された活動報告書を掲載する。〔なお 1 グループ（「県大手話の会」）より、活動の休止が報告された。〕

英文法研究会活動報告

英米学科　岡本直樹

英文法研究会は、英文法や英語（言語）学に興味を持つ学生が、自分たちの専門性を高め合うことを目的として発足した会です。現在、毎週木曜日の 3 限目の時間に、図書館のグループ研究室を利用して活動しています。メンバーは 3 年生 3 人です。

テキストはラーセン・フリーマンらの The Grammar Book を使っています。この本は副題にある通り、「英語教師のための文法書」ですが、メンバーは必ずしも教員志望ではなく、その専門も英語史（英語の歴史・歴史言語学）から情報構造、音声学・音韻論（音に焦点を当てた言語学）まで様々です。そういった異なるアプローチを取る学生が集うことで、毎回英文法についての有意義な討論が行われています。

毎週テキストを 1 章ずつ読み進める形を取っていますが、メンバーが他の授業で発表した事柄や、自分で調べたことなどを会で共有することもあります。2014 年度の後期に討論した内容は、「英語の格（case）について（格文法（case grammar）では、SVO to（名詞）の名詞を「与格」、SVO for（名詞）の名詞を「受益者」とするが、それはなぜ？二重目的語構文と与格構文の意味的な違いは？）」や「英語の文型について（5 文型では分類できない文は？また英語学習者にとって最も有益な文型はなにか？）」、「命令文について（命令文の主語はいつでも you？そもそも、命令文という名称は妥当？）」、「英語の比喩表現（メタファー・メトニミー・シネクドキー）について」などです。

今後も、毎週研究会を実施していくと共に、Biber et al.の Longman Grammar of Spoken and Written English も読んでいき、メンバー各自が卒業論文のテーマを見つけ、各々研究を進められるようにしていきます。また、言語学系のゼミに参加している学生や、英文法を専門的に勉強してみたいという学生に広く開かれた会にしていけるようにします。

ドイツ語研究会活動報告書

国際関係学科　美濃羽智子

➢　はじめに

ドイツ語研究会は、2014 年の 7 月から活動を開始した。毎週月曜日のランチタイムに、自習室で活動している。12 月に入ってからは、ドイツ語を学んでいない学生と、月曜日の 3 時間目にアイコトバで、会話の練習をしている。以下は、7 月から、月ごとに活動内容を記してある。

➢　7 月~9 月

7 月中は、教科書の選定や、期末テストで、ほとんど活動が出来なかった。しかし、夏休みの間にドイツ語から離れてしまうことを恐れ、週に一度、単語 10 個と簡単なドイツ語の作文をマナバを通して、メンバーと共有した。だが、メンバーの誰も、マナバを見なかったため、打ち切り。

➢　10 月

台風によって、活動は限られたものになった。

自分の夏休みについて、順番にスピーチを行った。スピーチの前に、スピーチの中で使われている新出単語や、キーワードを黒板に書き、ある程度内容を理解してからスピーチをした。しかし、自分でドイツ語を書くことが嫌だというメンバーの意見を受けて、打ち切り。

➢　11 月～12 月

ドイツの各都市と祭りについて、レジュメを順番に作成して、発表した。また、レジュメ内の重要単語を、翌週テストした。この活動は、研究会の中にドイツ留学を望むメンバーが多いことを知って始めた。彼女らにとって、ドイツの様子を少しでも知ることが、留学先を選ぶ際、プラスになると思ったからだ。祭りをテーマにした理由は、祭りがその土地の文化を形作る大きな一片であり、ドイツの文化理解につながると考えたからだ。

➢　11 月 26 日

ドイツ語で書かれたレシピを基に、ドイツの本格的なソーセージ作りを行った。

➢　さいごに

色々と自分だけで決断することが多く、私の能力を超えており、少々苦しい一年だった。

学吧☆ 教科書外の“中国”との出会い

中国学科　石川愛純

私たち、「学吧☆」は当初中国語学習を主とした活動をしていました。しかし、ただ中国語を学ぶだけでなく、中国学科の学生、中国人留学生や中国人講師、さらには他学科の学生と、異文化理解を通して交流できる機会をつくりたいという結論に至り、現在は「橋梁会（桥梁会、日本語では“懸け橋”という意味）」という日中交流会企画サークルと活動を共にしています。この自主学習では、中国文化や慣習、留学生や留学経験者との交流を通して中国語学習を行いました。

◆活動記録

1.　勉強会

当初は主に、毎週水曜日の午後、集まれるメンバーのみで活動しました。内容は様々で、一人がその日の進行役を務め、学習する内容を決めました。興味深いニュース記事をメンバーと一緒に読み、その中でいくつかの単語をピックアップして書面体と口語体との区別をしました。その後、橋梁会と活動を共にし、企画した「談話会（谈话会）」という学習会では、中国人留学生を交え、身近にあるものや、会話の中でよく使うフレーズなどを習得しました。また、中国のお菓子を持ち寄り、中国人留学生と日中両国の食文化の違いについて中国語で討論しました。また、日常会話で使用する中国語だけでなく、学習会では、実際のニュース記事を読むことによってフォーマルな中国語にも触れ、討論を通して異文化理解もすることができました。中国人留学生や先生、中国留学経験者から得た知識は、授業でも得られないことだったので、とても有用なものでした。（写真下左）

2.　交流会

交流会では、これまでに「日中餃子交流会」、そして iCoToBa 中国人講師の顾先生を交えた「明治村探索」を企画しました。探索中はすべて中国語で交流し、留学経験者たちも、「留学の頃に戻ったようだ」と大変有意義な時間を過ごせたようです。本来、明治村探索は、主に中国人学生が日本についての理解を深め、交流できる機会を作ろうという主旨で企画しました。しかし、開催日程や、交通手段が不便ということもあり、期待していた参加人数に至りませんでした。この結果から、交流会を企画するには、自分たちが良いと思うものではなく、参加していただく相手方が何を望んでいるかに重点を置くことが最も重要なのだと学びました。日中餃子交流会では、日本式の餃子と中国式の餃子の二種類を作りました。企画メンバーによる、中国では大みそかに餃子を食べるという慣習紹介や、中国人の先生や留学生が率先して、中国式の餃子の作り方を日本人学生に教えるという過程を通して、参加者全員が楽しく交流をすることのできる機会となりました。（写真下右）

フィンランド語学習会活動報告書：反復の場

国際関係学科　猪狩春樹

2014年度は愛知県立大学でフィンランド語の授業が開講された。このことはフィンランド語学習会にとってとてもありがたいことになった。2012年5月から、独学でフィンランド語を学習してきたため、フィンランド語の文法を体系的に教えてくれる先生が週一回愛知県立大学に来てくれたことはとても学習会にとって有益だった。ひたすら覚えるしかないと思っていた文法事項を整理することができ、覚えることの負担が軽減された。特にフィンランド語は語の語形変化が豊富であり、それぞれの語形に対しての語幹のパターンを覚えるのが非常に煩雑である。こうした文法事項を授業の中でまとめることができたことは学習会での内容を反復することにもなった。

フィンランド語の授業では、文法をしっかりと叩き込まれるので、学習会では文法を控えめにして、インプットよりアウトプットに重点を置くことにした。その言語の体系がどのようになっているかを知るために文法はとても重要だが、その体系をしっかりと身に着けるために反復もまた必須になる。そのため、今回の学習会は、山下亜古（2013）『ニューエクスプレス　フィンランド語』白水社　を最初の第一課から順番に学習することにした。ニューエクスプレスシリーズは文法よりも会話のための

表現に比重を置いているので、実際に話そうとするときに役に立つ表現を増やしていくことを目標にした。そこで取り上げられているテキストは即使えるものが多く、まさに暗記してしまうべき文章ばかりである。文法事項を気にしないで、口からすぐに出てくるように何度も反復することを学習会では狙いとしてきた。

主に外国語を上達させるためには、反復がどうしても必要だが、個人で反復学習を継続していくことは難しい。学習会という環境を作ることでフィンランド語に触れ続けられるようにしたい。

ポルトガル語研究会活動報告

国際関係学科　木戸志緒子

2 年目の活動を振り返って

本年度はスペイン語専攻の4年生が卒業し、日系3世のブラジル人の学生が2名、母親がブラジル国籍の学生が1名参加したので、昨年度とは全く違った内容になりました。活動場所は昨年度と同じ iCoToBa で、毎週金曜日のお昼休みに行いました。セルジオ先生、モルガン先生にご協力いただき iCoToBa での DVD の視聴が可能となったため、教材を有効に利用することができました。具体的には、‘what i like about you ’ というコメディドラマの字幕を活動日の前に抜粋して印刷しておき、その字幕と実際に使われている表現との違いなどをブラジル人の学生たちと話し合いました。

学外活動として、7月６日にフェスタ・ジュニーナというブラジル人学校のお祭りに6名で訪れ、ブラジルのダンスを見たり高校生たちが模擬店で販売しているシュハスコやケーキを食べたりしてブラジル文化を体験しました。昨年好評だったブラジル料理店の訪問については、台風のため中止になったことが残念でした。

フェスタ・ジュニーナの後、7月１７日には同じブラジル人学校の高校生が県大を訪問し、多文化共生の講義で学生たちと交流する機会がありました。ワークショップの時は、話し合いのグループに一名ずつ分かれて参加し、会話の援助ができるように配慮しました。また、毎週の活動の他に、ロゼッタストーンを自主学習に利用しています。

本年度の後期はメンバーのスケジュールが合わず、参加が少なかったのですが、いろいろな機会に恵まれていたので、その点で有意義でした。学年や学科の違いを超えて活動することは難しいこともありますが、継続できて良かったと思います。今後は DVD をより活用して実践的な会話や読み物にも挑戦していきたいと思います。高等言語研究会に一年間ご支援いただきありがとうございました。